

# 安全の手引き

2023年2月

在ミラノ日本国総領事館

## 《目 次》

### 序言 (はじめに)

- 1 防犯対策の基本的な心構え・・・・・・・・・・・・・ 3
- 2 北イタリアの犯罪発生状況及び手口別防犯対策・・・・ 4
  - (1) 北イタリアの犯罪発生状況
  - (2) 邦人の犯罪被害状況
  - (3) 日本人が被害を受ける主な手口
  - (4) 被害後の措置
- 3 その他一般的な防犯対策・・・・・・・・・・・・・ 7
  - (1) 侵入盗対策
  - (2) 外出時の防犯対策
- 4 交通事情と事故対策・・・・・・・・・・・・・ 10
  - (1) 交通事情
  - (2) 運転と交通ルール
  - (3) 事故の当事者となってしまった時の対応
- 5 テロと誘拐対策・・・・・・・・・・・・・ 12
  - (1) テロ
  - (2) 誘拐
  - (3) 過激な市民団体などの抗議行動
- 6 緊急事態対処要領・・・・・・・・・・・・・ 13
  - (1) 『危険情報』について
  - (2) 『スポット情報』について
  - (3) 『安全対策基礎データ』について
  - (4) 平素の心構え
  - (5) 緊急事態が発生またはそのおそれがある場合の対応
  - (6) 退避又は出国
  - (7) イタリア国内事情、危険情報の入手方法
  - (8) 緊急事態に備えてのチェック・リスト
- 7 緊急連絡先・・・・・・・・・・・・・ 16
  - (1) 官公庁
  - (2) 在イタリア邦人団体
  - (3) 警察関係
  - (4) 火災及び救急車
  - (5) 主な航空会社
  - (6) 「いざという時のための簡単イタリア語」

## ○ 序言 (はじめに)

### (1) 外国で生活すること

外国で安全な生活を送るためには、文化や習慣等その国の事情をよく理解する必要があります。

日本では常識的なことであっても、国によっては非常識と見なされる場合もあるほか、その国の法律を知らなかったばかりに、思わぬ犯罪に巻き込まれ被害を受けたり、加害者になることもあり得ます。

この手引きは、北イタリアのうち、特にミラノで生活される方、また旅行者や出張者等の短期滞在の方にも参考になるように取りまとめたものであり、皆様の安全なご滞在の一助となれば幸いです。

### (2) イタリアの治安状況

2022年のイタリアの刑法犯認知件数は、11月末現在で1,994,224件となり、2021年の1,935,309件よりすでに3パーセント増加しているほか、日本の2021年の刑法犯認知件数601,389件の3倍以上となっており、人口比で一人あたり6倍以上の差となります。

現在は、新型コロナウイルスの入国制限措置が解除されましたが邦人を含めた観光客がコロナ以前より少ない状況が続いています。しかし世界中から引き続き多くの観光客が訪れる地であることから観光客被害も多く邦人の被害も後を絶ちません。

邦人被害の多くは、現金等を目的とした窃盗犯罪です。そのため、注意力をもって防犯対策(例えば、電車内ではリュックサックを前に抱える等)を行えば防ぐことができるものがある一方で、犯人の1人が被害者の注意を逸らせ、その隙に他の者がスリ等を敢行する等の組織的な犯行は、事前にそれら犯罪手口を知るなど相当な注意力がなければ防ぐことは困難です。

よって、自分の身を自分で守るためには、「ここは日本ではない」ことを常に念頭におき、当地での犯罪状況及びその防犯対策の情報を収集し、対策を講じることが肝要です。

### (3) 海外安全ホームページの確認と「たびレジ」の登録又は「在留届」の提出

外務省の海外安全ホームページ

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

には、イタリアを含め世界中の国々の治安情勢、安全対策に関する情報が掲載されていますので併せて御活用ください。同ホームページから、海外安全アプリのダウンロードもできます。

また、在外公館から安全に対する最新情報やいざという時の緊急時情報を受けるために、3か月未満の渡航を予定されている方には、海外旅行登録システム「たびレジ」

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>

に登録を、3か月以上の滞在を予定している方には、Eメールアドレスの登録も含めた「在留届」

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

の提出を是非ともお願いいたします。

## 1 防犯対策の基本的な心構え

海外で安全な生活を送るためには、滞在先の実情に応じて常に防犯対策を講じていく必要があり、その基本的な心構えは次のとおりです。

### (1) 「日本ではない」という意識の堅持

日本での生活が長い多くの方は、これまで犯罪被害に遭ったことがなく、「防犯」といってもどこか他人事のように捉えてきたのではないのでしょうか。日本は世界で最も安全な国の一つと言われているため、やむを得ない部分もありますが、当地では犯罪被害の危険はすぐそこにあります。「自分に限ってはない」という意識は捨て、防犯対策を確実に講じてください。

### (2) 危険な地域、時間帯の把握

基本的にどの国も程度の差はあれ、人気のない通り、駅周辺及び夜間帯は危険です。その上でその国、地域に特化した危険が存在しているので、最新の情報収集に努め、決して近付かないようにしてください。

### (3) ターゲットにされない努力

犯人は、容易に成果を上げることができる対象を探しています。邦人は多額の現金を持ち歩く傾向が強く、安全に対する意識が低いことからターゲットにされやすいと言われています（治安当局によれば、窃盗団が特に日本人をターゲットにしていた事実が判明しています）。

華美な服装、装飾品を身につけない、リュックを前に抱える、ポータブルメディア等でイヤホンを利用しない、スマートフォン等を見ながら歩かないまたは周囲に注意を払いながら足早に歩く等、十分な防犯対策を講じていることを第三者に認知させ、ターゲットにされない対策が必要です。

### (4) 万が一を想定した備え

防犯対策により犯罪にあうリスクを低くすることは可能ですが、ゼロにすることはできません。万一被害にあった場合でも被害を最小限にするために、必要最低限の現金しか持ち歩かない（やむを得ない場合は現金を分散して持つ）、クレジットカード会社の緊急連絡先を控えておく、貴重品を自宅に置かず会社といったセキュリティの高いところで一部を分散しておくなど管理する等、最悪の事態を想定した備えをしましょう。

## 2 北イタリアの犯罪発生状況及び手口別防犯対策

### (1) 北イタリアの犯罪発生状況

例年ミラノ、ベネチア等の観光地を中心に、邦人旅行客を狙ったスリ、置き引き被害が多数発生しているほか、ミラノ市内では、在留邦人宅の空き巣被害も発生しています。

また近年の傾向として、サイバー空間における詐欺等の犯罪被害が増加する等の犯罪傾向の変化が見られるほか、窃盗等の街頭犯罪が増加しています。

### (2) 邦人の犯罪被害の現状（当館に届出されたもの）

2022年中、当館が認知した北イタリアにおける日本人犯罪被害数は41件となり、内訳はスリ21件、置き引き12件、車上狙い4件、ひったくり3件、詐欺1件でした。

そのほとんどがスリや置き引きの窃盗被害となっており、被害場所はミラノとヴェネチアが多く、特にミラノのドウオーモ周辺と中央駅に被害が集中しています。

スリの手口に関して、イタリア刑法で妊娠中の被疑者は必ず執行猶予が付されるとされており、これを利用した妊娠中の東欧系女性スリグループが地下鉄等で犯行を重ねています。

よって、引き続き被害に遭わないよう人が混雑する場所やラッシュアワー時には、貴重品から目を離さない等の注意をお願い致します。

### (3) 日本人が被害を受ける主な手口

#### ア スリ

地下鉄電車内、地下鉄等駅構内、観光地周辺、飲食店及び路上等で発生しています。

被害手口として窃盗団グループによるスリが顕著で、特に地下鉄の乗降時を狙われています。

#### (ア) 被害事例

- ・ 複数の女性に囲まれ身動きがとれなかった時
- ・ 妊婦等に話し掛けられた時
- ・ 必要以上に身体を近づけられた時
- ・ 落とし物（小銭、メガネ、マフラー等）で注意を逸らされた時
- ・ リュックサックを背負ったまま乗車していた時
- ・ エスカレーター上やエレベーター内で乗降中の時
- ・ 駅構内で切符を買う時
- ・ 大型スーツケースを携行している時（転がす音が目立つ）
- ・ バッグの斜めがけ、またはリュックサックを背負っての移動中
- ・ 観光地等での写真撮影中

#### (イ) 具体的注意事項

- ・ スリ犯のターゲットにされないよう努める。
- ・ 華美な服装、装飾品は身につけない。
- ・ リュックサックは前に抱え、ファスナーに鍵をつける。
- ・ カバンはファスナー付きを選び、貴重品は外ポケットに入れることなく奥底に入れる。また体の前でファスナーに手を添えて持つ。
- ・ 全貴重品をバッグ等一箇にまとめて入れておくと、万一盗まれた時に大きな痛手を負うことになるので、貴重品は分散して外部から容易に手の届かないところに入れる。
- ・ 財布等の貴重品をズボンの後ろポケットに入れない。
- ・ 地下鉄乗車時はドアの近くに立つことなく、車両中程に入る。

（ドア付近は路線図を尋ねて気を逸らせての犯行が行われたり、犯行後に降車が容易であるほか座席に座っている乗客の目が届かないこと等の理由からスリ犯が好むエリアです。

また、車両中程に移動しようとした際に、複数の女性にブロックされたり、声をかけられた場合は、スリ犯を疑ってください。特徴として20～30代の女性で、片手には犯行を隠すためにコートや上着、マフラー等を所持している犯行グループが目撃されています。）

- ・ 地下鉄や店舗内では周囲に注意を払い、不審な人物や数人のグループが近付いてきたら、その場を移動する（イタリアでは、小さい子連れの女性や妊婦が窃盗団の一員とし

て捕まっていますので、年齢や性別で注意力を落とすことなく警戒してください。)

また、地下鉄車内で、急に話しかけられた場合には、まずスリを疑ってください。

スリグループの仲間が、バッグやポケットから財布を盗むために気を逸らせている可能性が高いです。

- ・ スリ犯は、切符購入時や店舗等で財布の出入れを見ている場合があります。財布の出入れは、必要最低限にする。万々に備えて、多額の現金は持ち歩かず、紙幣は分散して所持するほか、目立たない小銭入れサイズの財布を持つことも一つの対策です。当館が認知したスリ被害の財布の特徴として、長財布が多いです。

## イ 置き

長距離特急列車内、レストラン、ホテル、空港等で多発しています。

### (ア) 被害事例

- ・ 声をかけられたり、床に小銭を落とされる等で注意を逸らされる間に車両の座席、荷物棚に置いたカバンが盗まれた。
- ・ 列車の発車間際に荷物棚からスーツケース等を盗まれた。犯人は即、降車し逃げた。
- ・ レストランで座席の背もたれ、空席の椅子に置いたカバンが盗まれた。
- ・ ホテルの朝食会場で場所を確保するために置いていたバッグが盗まれた。
- ・ ホテルロビーでのチェックイン・アウト時に足下やソファに置いたカバンが盗まれた。
- ・ ホテルのロビーで、急に話かけられ荷物を盗まれた。
- ・ 空港荷物のターンテーブルで、スーツケースのピックアップ待機時に近くに置いたバッグが盗まれた。

### (イ) 具体的注意事項

- ・ 貴重品の入ったカバン等は身体から離さない。  
(犯人がターゲットを定めた場合、その近くに友人等がいても敢行します。友人、同僚から荷物を見てあげると言われても、注意力が限られているので慎重に判断しましょう。)
- ・ (飲食店内では、空席の椅子上にコート等で荷物を隠しても、窃盗犯にはお見通しです。)  
犯人に目を付けられないよう手荷物は足下の両足の間、貴重品は上着ポケットや膝の上など、常に身体に触れる位置に置く。
- ・ 犯人は、客を模して被害者の座席背部に座ることが多く、注文することなく敢行し、犯行後は直ぐにその場から立ち去ります。店の出入りが容易なテラス席等は特に要注意です。
- ・ 列車内では、旅券等の貴重品が入ったカバンは網棚に置かず、身の回りに携行する。網棚に荷物を置く場合には目の届く位置に置き、また、大型荷物置き場にスーツケースを置く場合はチェーンロックを施すか、列車の発着時は目を離さないようにする。

## ウ 車上狙い

高速道路サービスエリア (SA)、ミラノ市内の路上等で発生しています。

コロナ禍において、いわゆる「パンク盗」(犯人にタイヤのパンクを指摘され、その対応中に車内からバッグ等を盗まれる)が継続的に発生しており、しかも、犯人は窃盗を完遂するまで執拗に行っている模様です。また、市内の路上駐車車両の窓ガラスが軒並みに割れている状況も散見されますので、車上狙いが相当数発生していることが予想されます。

### (ア) 被害事例

- ・ 飲食店駐車場等に駐車中のところ、窓ガラスが割られ貴重品を盗まれた。
- ・ 運転中や停車中にタイヤがパンクしていると言われ、降車して確認した際に車内の貴重品を盗まれた。
- ・ レンタカーパーキングで話しかけられた際、車内からバッグが盗まれた。

### (イ) 具体的注意事項

- ・ 車内に貴重品は絶対に放置しない。貴重品の入っていないカバン等でも、車外から見える場所には置かず、トランク等に事前に収納する(駐車場等で荷物を移し替えていると、収納場所を犯人が見ている可能性があります。)
- ・ 乗車中も助手席等外部から見えやすいところに置くことなく、足下や後部座席等に置く。
- ・ パンクを知らされた場合は車上狙いの可能性を疑い、慌てることなく貴重品を必ず身

につけてから降りる（パンクしても即走行不能になることは希であり、安全な場所にゆっくり停車させましょう。）。

#### エ 強盗致傷事件

邦人被害の強盗等の凶悪犯罪については、特にミラノ中央駅付近の発生が多くなっています。

##### 具体的注意事項

- ・ ミラノ中央駅を利用する場合は、可能な限り単独での夜間帯の利用、地下通路の利用は避け、警察等の治安当局が固定警戒している直近を通行する。
- ・ 犯人に尾行されているおそれがあるため、繁華街でも周囲に注意を払って、警戒していることをアピールする。

#### オ クレジットカードすり替え窃盗

空港等において、犯人は、自己のクレジットカードが使用できないので、被害者のものを試すよう依頼し、その過程で犯人が所有する被害者と同種のクレジットカードとすり替えて盗む手口が従前より発生しております。被害者のカードは、すり替えられているので、被害の発覚までに時間を要し、相当な被害額になってしまいます。

##### 具体的注意事項

道路上等でクレジットカードを他人に触らせることは絶対にしない。

#### カ 空港ならではの窃盗事案

テロ対策により手荷物の持ち込みを制限しているため、空港内で荷物整理を行っている際に被害に遭うケースが発生しています。

##### 具体的注意事項

荷物整理に夢中にならず、適宜周囲の状況を確認し、話しかけられた場合にはスリを疑い、荷物から目を離さない。

#### キ その他

##### (ア) 当たり屋行為

車を運転中、犯人に車両を横（前）付され、車体をこすられた等の言いがかりを付けられて現金を要求される事案が発生しています。

##### 具体的注意事項

言いがかりが明白な場合や犯人が興奮している場合には、躊躇せずに112通報をして警察を呼ぶ。犯人が架電を妨害する場合には、付近の店に駆け込む等して助けを求める。

##### (イ) スマートフォン等のひったくり

使用中のスマートフォン等を手で無理やりひったくる事案が発生しています。

##### 具体的注意事項

スマートフォンを使用する際は、安全な場所で立ち止まって使用する。

#### (4) 被害後の措置

十分に気を付けていても被害に遭ってしまう場合があります。その際には直ぐにクレジットカード会社等に連絡し、カードを無効にしてください。その後、最寄りの警察署に必ず被害の届出を行ってください（イタリア国内であればどこでも可）。これを怠ると、第三者に旅券やクレジットカードを悪用された場合に不利益を被るおそれがあります。また、被害届証明書は、保険会社に被害額等の請求を行う際にも必要となります。

### 3 その他一般的な防犯対策

被害を避けることが困難な事案を除き、その多くは事前に対策を施し、注意を払うことで回避が可能です。以下の対策や注意事項を参考にしてください。

#### (1) 侵入盗対策

空き巣犯人は容易に侵入可能か否かを判断するため、下見をすることが通常であり

- ・狙われにくい物件を選定する
- ・入居時やその後に重層的な対策をして防犯性を高める

ことが重要なポイントとなります。

#### ア 新居選定時の着眼点（防犯上避けるべき物件）

- (ア) 日本式1階（当地の地上階）や2階（同じく1階）部分または最上階の部屋  
→ 1、2階は容易に侵入可能であるほか、最上階は隣の建物から屋根伝いに侵入可能
- (イ) 通りに面した部屋  
→ 建物内部への門扉が閉まっても侵入可能
- (ウ) 門番（管理人）不在のアパート  
→ 狙われ易く、容易に建物内部まで侵入可能
- (エ) 屋上への立入り可能なアパート  
→ 屋上から上層階へ侵入可能
- (オ) 窓やベランダ横に足場となる雨どい等が設置されている。  
→ 泥棒が雨どいを使ってよじ登ることが可能
- (カ) 窓に鎧戸（イタリアでは主にタッパレツァと呼ばれるもの）が設置されていない。  
→ 窓ガラスを割られて侵入可能

#### イ 新居入居時の推奨事項

- (ア) 玄関扉錠の交換や増設を行う。  
過去の居住者が合鍵を所有したままになっている場合や、入居前に作業を行った清掃業者等が合鍵を作るおそれがあるため、家主に相談して錠の交換や増設をしましょう。
- (イ) 錠は可能な限り、最新の技術のものに交換する。  
空き巣の手口として、特殊な器具（「CHIAVE BULGARA」）を用いて鍵穴から鍵情報を盗みとり、その合鍵で犯行に及ぶものが多く発生しています。絶対的に侵入を防げる錠はありませんが、古い錠はその情報を盗むのがより容易なため、狙われ易くなります。  
地元警察が推薦する鍵は、複製時に必要となるセキュリティカードが付いた「CHIAVE EUROPA」と呼ばれるもので、一般的に安全性が高いとのこと。
- (ウ) 窓や扉の施錠状況の確認  
入居後すぐに確認し、きちんと施錠できない場合には、家主に相談しましょう。
- (エ) 警報装置等の防犯機器の設置  
警備会社又は警察と契約して緊急出動可能な警報装置を設置することがより望ましいです。また侵入時にアラーム吹鳴型のもは効果があるとされています。

#### ウ 入居後の注意事項

- (ア) 確実に外出時の戸締まりを  
短時間の外出でも玄関ドアは確実に施錠しましょう。また、ガラス窓を割られる侵入盗の防止効果があるため、外出時には鎧戸を閉めることをお勧めします。
- (イ) 在宅中でも玄関ドアは確実に施錠を  
在留邦人が在宅中、泥棒に侵入されて鉢合わせになった事例があります。その場合、空き巣犯が居直って強盗犯となり、身体に危害が及ぶおそれがありますので、在宅中でも玄関ドアは確実に施錠しましょう。泥棒に気付かれていない場合は、鍵のかかる部屋に退避し警察（112番）に通報しましょう。また、泥棒と鉢合わせた場合には、凶器を携帯しているおそれもあるので、無理に抵抗することなく、身の安全を第一に行動してください。

#### エ 窓の施錠も忘れずに

窓を開放状態で在宅される方も多いかと思いますが、昼間帯でも、ベランダ等から侵入されるおそれがないか確認してください。また、夏の夜等に窓を開けたまま就寝すると、性犯罪被害につながる場合がありますので、窓を閉めて就寝した方がリスクは少ないです。



オ 業者等を部屋に入れる場合には必ず立会人を  
室内設備の修繕、ベビーシッター、ハウスキーパー等でやむを得ず業者を家に入れる時は、貴重品等を盗まれないよう家人自らもしくは管理人に立ち会ってもらい、貴重品は目に付かない場所に保管しましょう。

カ ベビーシッター等の選定は慎重に  
ベビーシッターやハウスキーパーが家人の生活スタイル(不在時の情報)を空き巣犯に伝え、共謀して犯行に及ぶ場合があります。知人等からの紹介で信頼性の高い人物を選定し、採用後も不審な行動がないかチェックしましょう。

キ 万が一に備えて自宅の貴重品を分散することも  
自宅が空き巣犯のターゲットとなり、入念に下準備をされて空き巣を敢行された場合、たとえ防犯性を高くしていても、防ぐことは極めて困難です。万が一侵入された場合でも、すべての貴重品を失わないために、その一部を会社事務所等の鍵のかかる場所に保管することも一案です。また、クレジットカード会社等の連絡先も控えておきましょう。

ク 被害に遭った場合には、クレジットカード会社等へ連絡した後に警察に通報を  
在留邦人宅の空き巣被害が例年発生しています。万が一、ご自宅に被害があった場合には、すぐにクレジットカードを止める等の措置をとった後、警察(112番)に通報してください。

## (2) 外出時の防犯対策

外出時の防犯対策の要諦は、いかに窃盗犯等にターゲットにされないように不断の努力を積み重ねることができるかです。これさえ守れば大丈夫ということはありませんが、防犯意識の有無、対策を講じるか否かで被害リスクに大きな差が出ます。まずは、日本人がターゲットにされている事実を認識し、外出時には周囲に注意を払う習慣をつけましょう。

窃盗団は、「プロ」の目で日本人のターゲットを探しているので、他国の旅行者以上に努力が必要です。

防犯上避けるべき事項は次のとおりです。防犯対策を重層的に行い、狙われない、もしくは途中で断念させる努力を積み重ねましょう。

これらの事例は、当館への被害の届出内容や地元警察からの情報を元に作成したのになりますので、外出時には可能な限りこれら項目を避け、被害リスクの軽減に努めてください。

ア 防犯上避けるべき(注意を要する)行動等 → 主な犯罪被害のリスク

### (ア) 容姿、所持品

- リュックサックを背負ったまま → スリ
- ヘッドフォンやイヤホンを利用 → スリ、性犯罪、押し込み強盗
- 派手な服装(女性は肌の露出にも注意) → スリ、性犯罪等
- 一目でブランド物とわかる高級品を所持 → 置引き、ひったくり、強盗
- 多額の現金及び高価な貴金属の携帯 → スリ(多額の被害)、強盗
- クレジットカード会社等の緊急連絡先を控えていない → 盗難被害後の多額の被害

### (イ) 行動

- 携帯電話の画面注視や通話に夢中になる → スリ、ひったくり
- ATM利用時に現金を人前でさらす、財布を鞆の外ポケットやズボン後ポケットに入れる → スリ、ひったくり
- バッグ等を車道側に持って歩く → ひったくり
- スマートフォンを使用しながら歩く → ひったくり
- 早朝、夜間に外出する → 強盗等凶悪犯罪
- 人通りの少ない道を歩く → 強盗等凶悪犯罪
- クレジットカードを他人に触らせる → クレジットカードすり替え盗難
- 無警戒に写真撮影の依頼に応じる → スリ
- 無警戒に地理案内に応じる → スリ

### (ウ) 交通機関

- 電車内等で予期せぬこと(目の前で落とし物、声かけ等)に完全に注意が奪われる → スリ
- 混み合う電車内で無防備のまま(バッグを抱える、ファスナーを押さえる等しない)

- ・ 目の届かない網棚等に荷物を置く → スリ
  - ・ 無警戒に路線案内に応じる → 置引き
  - ・ 早朝、夜間に公共交通機関を利用する → スリ
  - ・ 声を荒げる不審者がいても進路を変えない → 暴行、傷害
  - ・ 携帯で通話後に外部からの接触が容易なポケット（内ポケットではない）にしまう → 暴行、傷害
  - スリ
- (エ) 飲食店
- ・ 空席に荷物を置く → 置引き
  - ・ 荷物をコート等で隠しておく → 置引き
  - ・ 友人に荷物を見てもらう → 置引き
  - ・ 魚等の量り売りを注文 → ぼったくり的な高額料金の請求
- (オ) ブティック等店内
- ・ 試着時無防備にバッグ等を置く → 置引き
  - ・ 混み合う店内にもかかわらず貴重品が無防備 → スリ
  - ・ クレジットカードの暗証番号を無防備に入力 → スリ（盗難後の不正利用）
- (カ) 車両
- ・ 駐車時に貴重品を車内に残す → 車上荒らし
  - ・ 運転中、助手席に手提げバッグ等を置く → 置引き、ひったくり
  - ・ パンクを指摘され、完全に注意を奪われる → 置引き、ひったくり

## 4 交通事情と事故対策

### (1) 交通事情

イタリアの主要な都市では、地下鉄、バス及びトラム（路面電車）といった公共交通機関が整備されておりますが、当地の車社会はまだ根強く、町中には車が所狭しと停められ、通勤時間帯等では我先にと、強引な運転をするドライバーも少なくありません。

さらには、新型コロナウイルスの影響により、感染予防のために公共交通機関の利用が避けられ、一層の車利用に加え、その脇を縫っていくバイク、自転車さらには特にコロナ禍での電動キックボードの利用が増加し、交通事故（2021年交通事故発生件数は151,875件、死者数2,398件のうち、電動アシスト自転車と電動スクーターの死者数が229件）が多発しています。

### (2) 運転マナーと交通ルール

ア 当地の運転マナーは、日本と比べて良いとは言えません。方向指示器を点灯させない無理な割り込みや追越し、クラクションやパッシングの多用など、日本で罰則化したいいわゆる「あおり運転」が多くみられるほか、中心地や住宅街等の路上駐車スペースは常に満車状態であることが多く、車道中央の安全地帯や歩道上、街路樹の脇に至るまで雑然と駐車され、運転手等は周囲を確認せずにドアを開放することもあります。また、自転車・歩行者も信号無視が常態化しているなど、社会全体の交通ルールに対する規範意識が低い状況にあると言えます。

従いまして、運転時はもちろん、歩行の際も常に周囲に細心の注意を払うとともに、乗車時には全席シートベルトの着用（イタリアも日本と同様、全席着用義務あり）、自転車乗車時には積極的にヘルメットを着用するなど万が一に備えておく必要があります。

イ 当地の運転免許制度は、初期の持ち点を20点とした点数制で運用されており、交通違反の態様ごとに減点され、ゼロになった時点で免許が取り消されます。免許取消となった運転者は、改めて試験を受けて免許を再取得することとなります。

ウ ミラノ市内中心部では車両入場料金システム（名称「Area C」）が適用されており、平日7:30～19:30に規制ゾーンに侵入すると、一部の車両を除いて一律5ユーロ課金されます。この規制を知らずにレンタカー等で何度も侵入すると、後日多額の違反金を請求されますので要注意です。また、2019年2月25日より「Area B」が施行され、一部のガソリン車及びディーゼル車が「Area C」より広い範囲で入場規制対象となっています。詳しくは、ミラノ市ホームページをご覧ください。

※ミラノ市ホームページ：<https://www.comune.milano.it/aree-tematiche/mobilita/>

### (3) 事故の当事者となった時の対応

#### ア 物損事故

事故発生の際は、車両を動かすことなくそのままの状態にしておいてください。

たとえ他の車両の通行妨害となろうとも、そのままの状態にして相手方と話をする必要があります。ただし、夜間の高速道路上や雨天での事故など、危険な状況である場合には、相手と合意の上で車を移動させることができます。

なお、事故現場において安易に謝罪の言葉を口にすると、相手に過失を認めたものと誤認されるおそれがありますので注意が必要です。

#### イ 相手方への確認事項

後刻双方の保険会社が行うので現場で責任問題を話し合う必要はありません。

現場では必ず相手方の連絡先が記載された書類等を目視で確認し、後日音信不通にならぬよう徹底してください。

- ・ 車種／メーカー／ナンバープレート 車両の所有者／住所／電話番号  
→ 車の登録証から確認可
- ・ 氏名／住所／電話番号  
→ 身分証から確認可
- ・ 運転免許証番号／発行陸運局／発行年月日  
→ 運転免許証から確認可

- ・ 保険会社名／支店番号／保険証書番号／有効期限
  - 保険証から確認可
- ・ 事故発生日時／場所／双方の破損箇所
  - 相手方と確認し、写真を撮る等状況を保全
- ・ 事故現場見取り図
  - 相手方との調整は不要。自身の主張を記載

現場において現金で解決することは、後にトラブルを招くおそれがあるので避けた方が無難です。相手方との事後の紛争に備え、可能な限り目撃者を確保し、同人の氏名、住所、電話番号を聴取しておきましょう。また先方が示談書(Constatazione Amichevole:通称『modulo blu』)に署名を求めてくる場合がありますが、内容を正確に把握できない場合は、応じない方が無難です。

#### ウ 人身事故

怪我を伴う事故が発生した場合、直ちに救急措置(救急番号は118番)を行ってください。警察には事故を認知した救急センターから通報がなされ、管轄の警察が現場に向かいます。

#### エ その他

- (ア) 通常は警察の要請を受け、自走不能となった車はイタリア自動車クラブ(ACI)が一時保管所へ移動させます。ちなみに、走行中に故障した場合は、契約の保険会社またはACIの24時間緊急受付番号(116番)に連絡して処置を依頼します。
- (イ) 車の修理代金は、保険の適用が認められるまで保険会社が契約している修理工場を立て替えます。また、相手方との示談が不成立となり、民事訴訟が提起された場合には、修理代金は保険会社の立替えとなります。

## 5 テロと誘拐対策

### (1) テロ

治安当局によれば現在、日本を直接の目標に掲げているテロ組織はないとのことですが、テロ発生のおそれは否定できず、その手口は特に宗教行事の開催時期にソフトターゲット（多数の人々が集まる場所）を狙うことが多いです。

#### ア イタリアにおけるテロ活動の実態

イタリアでは近年、邦人その他我が国権益を直接の攻撃対象としたテロ事件は確認されておらず、またイタリア当局によれば、現時点までテロに関する具体的な脅威はないとしています。テロは一般市民（ソフトターゲット）を狙う傾向にあります。

当地には、多くの観光客が集まる歴史的建造物や広場、宗教関連施設及びサッカースタジアム等が所在していることから、イタリア当局による車両進入防止用の車止めの設置、イベント開催の手荷物検査などのテロ対策が実施されています。

#### イ 対策

当地には、テロリストの標的になり得る大聖堂等の歴史的建造物があるほか、ターミナル地下鉄、空港及びイベント会場等の人が多く集まる場所は格好のターゲットになり得ることを念頭に置き、次の具体的注意事項を参考にしてください。

##### 具体的注意事項

- ・ 報道等から最新の情報を入手する。
- ・ テロ警戒警報に接した時は、テロの標的となるおそれのある施設（例えば政府機関、米国等の大使館／総領事館、外国企業、空港や駅、多数の人が集まる場所）には近付かないようにする。
- ・ 海外旅行をされる方は、外務省の「海外安全ホームページ」の『スポット情報』、『安全情報』、『テロ概要』等を確認

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

するとともに、「外務省海外安全アプリ」のダウンロード、「たびレジ」

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>

へ登録して常に最新情報を入手できる状態にする。

- ・ 外務省「海外安全ホームページ」掲載の「海外旅行のテロ・誘拐対策」、「海外へ進出する日本人・企業のための爆発テロ対策Q&A」も参考にしてください。

### (2) 誘拐

近年誘拐事件は、ほとんど発生はなく、邦人・日系企業を狙った事件の発生はありませんが、外出時、幼い子だけの状態にすることのないようにしましょう。

### (3) 過激な市民団体などの抗議行動

今年に入り、アナーキストによるデモがイタリア各地で発生し、特にそのリーダーが収容されているミラノにおいては、発煙筒などを投てきする無秩序なデモも発生していますので、情報収集を十分に行い、巻き込まれ怪我を負うなどすることのないよう注意願います。

また、反グローバリズムを訴える団体、毛皮使用や動物実験などに反対する団体が、国際会議や見本市会場等の周辺で物を投げたり、罵声を浴びせたりするなどの過激な抗議活動を行う場合があり、過去には当館等に対して、反イルカ漁や反捕鯨を訴えた抗議行動が随時行われていました。

近年、これら団体による当館への抗議活動はありませんが、日本は2019年に国際捕鯨委員会（IWC）を脱会し、その後商業捕鯨を再開しているほか、従来からのイルカ漁も継続しております。

よって、日本の捕鯨等をめぐる情勢によっては、日系企業等への抗議活動が懸念されますので、報道等から最新の情報を入手するとともに、抗議活動の事前情報を入手した場合や実際に行われている場合には、当館及び地元の警察に直ちに連絡してください。

## 6 緊急事態対処要領

平成27年より外務省では、世界各地の治安情勢等に応じた分かりやすい情報を発信するために「海外安全情報」を提供しています。この情報は「危険情報」、「スポット情報」及び「安全対策基礎データ」の3種類に分けられます。

### (1) 「危険情報」について

治安情勢に応じて4段階の 카테고리表記で注意喚起しています。

#### ア レベル1「十分注意してください」

その国・地域への渡航、滞在に当たって危険をさけていただくため特別な注意が必要です。

#### イ レベル2「不要不急の渡航は止めてください」

その国・地域への不要不急の渡航は止めてください。渡航する場合には特別な注意を払うとともに十分な安全対策をとってください。

#### ウ レベル3「渡航は止めてください」(渡航中止勧告)

その国・地域への渡航は、どのような目的であれ止めてください。(場合によっては、現地に滞在している日本人の方々に対して退避の可能性や準備を促すメッセージを含むことがあります。)

#### エ レベル4「退避してください」

その国・地域に滞在している方は滞在地から、安全な国・地域へ退避してください。

また、この状況では当然のことながら、どのような目的であれ新たな渡航はやめてください。

これら4段階の 카테고리の表記及び説明によりきめ細かく注意喚起しています。

### (2) 「スポット情報」について

「スポット情報」は、特定の期間、場所及び事項について、邦人へ注意を呼びかける必要がある場合に発出します。テロに関する注意喚起情報から日常生活のトラブルに関することまで、幅広くタイムリーに注意喚起します。

### (3) 「安全対策基礎データ」について

「安全対策基礎データ」は、従来の「国/地域別安全情報」で、犯罪傾向、防犯対策、出入国・査証手続き、保健・衛生等の基礎的情報を提供しています。

### (4) 平素の心構え

政情が安定しているイタリアにおいても、緊急事態が発生しないとは言い切れません。

平素の心構えとして、次の点に注意するとともに、必要な措置をとってください。

#### ア 旅券の管理

旅券の有効期間が6か月以上残っていることを確認しておくと共に、いつでも持ち出せるよう、自己管理してください。

#### イ 在留届の提出等

3か月以上当地に居住される方は、オンライン上で在留届の登録をしてください。

登録先のメールアドレスに当地で生活する際に有益となる領事メールを受信できるほか、緊急事態発生時には、在留届を元に当館から安否確認を行います。また、住所変更、転職、出生等による家族の異動事項が生じた場合は、在留届の記載事項変更届を、帰国及び他国への転出の際には帰国・転出届の入力を行ってください。また、情報源を多くする観点から「北イタリア日本人会」等の邦人団体への加入を推奨します。

#### ウ 食料及び現金の用意

少なくとも10日間は生活ができる程度の飲料水、食料及び現金を常時用意しておきましょう。

#### エ 行動に便利な服装、着替え、履物等の用意

緊急退避時にすぐに対応できるように避難用の物品をまとめておきましょう。

#### オ テレビ・ラジオ・インターネット

状況によっては、外務省からNHKテレビ国際放送やNHK短波ラジオ国際放送を通じて、危険情報や在留邦人に対する具体的な助言について情報提供を行いますので、万が一の場合に

備えラジオを準備し、日頃からNHK短波ラジオ国際放送の聴取に慣れておきましょう。

- ・NHK テレビ国際放送  
<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/ja/world/>
- ・NHK ラジオ国際放送  
<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/ja/radio/howto/>
- ・NHK ワールドラジオ日本 海外安全情報  
<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/anzen/>

カ 車の整備

車は常に整備し、燃料は常時十分に入れておきましょう。

キ 保険への加入

海外旅行傷害保険には必ず加入しましょう。

#### (5) 緊急事態の発生又はそのおそれがある場合の対応

ア 緊急事態は突然発生するものではなく、事前の兆候等があります。状況の悪化に伴って外務省からレベルアップされた海外安全情報が発出されます。これらの確度の高い情報源を元に、家族の帰国等の退避準備を進めてください。

イ 当館では、ホームページ、領事メール（緊急一斉通報）、北イタリア日本人会、在イタリア日本商工会議所及びミラノ日本人学校等の緊急連絡網等により、随時、情報の提供及び必要な措置について連絡を行いますので、流言飛語や群集心理に左右されることなく、冷静に行動してください。

また、テレビ、ラジオ及びインターネットから最新の情報収集に努めてください。日本人相互間で緊密に連絡を取り合うことも必要ですが、情報交換する際には必ず情報源（総領事館、日本人会、警察及びニュース等）を確認し、正確な情報を共有してください。

#### (6) 退避又は出国

ア 騒乱等が発生した際は、自宅（旅行者の場合は宿泊先）や職場に行き、事態が鎮まるまで待機することが安全です。また、生命・身体に危害が及んでいる又はそのおそれがある場合には、警察（112）に通報し、救援を求める等適切な措置を取ると共に、迅速かつ詳細にその状況を当館に通報してください。

イ 外務省が「渡航は止めてください」を発出した場合には、早期に定期便で退避、出国を検討し、「退避してください」が発出された場合には、速やかに安全な国・地域へ退避してください。早期に退避することが最も安全です。定期便が利用できない場合には、状況によりNHKラジオ・テレビ、当館や外務省のホームページ、緊急一斉通報（メール）、電話等でお知らせしますので、万一の場合に備えて日頃からラジオ等を備え付けておくことをお勧めします。

ウ 退避（または退避後）に際しては、速やかに退避手段（便名等）及び出国先を当館に連絡してください。「退避してください」が発出されたにもかかわらず退避手段がない又は空港移動時の安全が確保できない等のやむを得ない事情により退避できない方は、当館と緊密な連絡を確保するとともに、状況が改善次第、速やかに退避してください。

エ 退避の際、パスポートは必ず身につけ、肌の露出が少ない動きやすい服装とし、履物は運動靴等動きやすいものにしてください。

荷物はリュックサック等を利用し、両手を空けておくようにしましょう。

#### (7) イタリア国内事情、危険情報の入手方法

治安の悪化、騒乱、災害その他緊急事態の発生又はそれら発生の可能性が高まっていると判断される場合には、当館より領事メールの発出、ホームページへの掲載等により情報提供いたします。

● 在ミラノ日本国総領事館ホームページ

[http://www.milano.it.emb-japan.go.jp/index\\_j.htm](http://www.milano.it.emb-japan.go.jp/index_j.htm)

- 在イタリア日本国大使館ホームページ  
[http://www.it.emb-japan.go.jp/index\\_j.htm](http://www.it.emb-japan.go.jp/index_j.htm)
- 外務省海外安全ホームページ  
<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

(8) 緊急事態に備えてのチェック・リスト

ア 旅券

旅券については、6か月以上の残存有効期間があることを常に確認しておいてください（6か月以下の場合には在留先に在外公館に対して旅券切替発給を申請してください。）。

旅券と併せ、滞在国の外国人登録証明書、滞在許可証等はいつでも持ち出せる状態にしておいてください。なお、出国や再入国に係る許可は常に有効な状態としておくことが必要です。

イ 現金、貴金属、貯金通帳等の有価証券、クレジットカード

緊急時には旅券とともにすぐ持ち出せるよう保管しておいてください。現金は家族全員が10日間程度生活できる外貨及び当面必要となる現地通貨を予め用意しておくことをお勧めします（ただし、イタリアの場合10,000ユーロ（金額）以上の通貨持ち出しは許可/届出が必要）。

ウ 自動車等の整備

- ・ 自動車をお持ちの方は常時整備しておくよう心掛けてください。
- ・ 燃料は十分入れておくようになしてください。
- ・ 車内には、懐中電灯、地図、ティッシュ等を常備してください。
- ・ 自動車をお持ちの方は常時整備しておくよう心掛けて、特に燃料は十分入れておくようになしてください。

エ 自動車を持っていない方は、近くに住む自動車を持っている人と平素から連絡を取り、必要な場合に同乗できるよう相談しておいてください。

オ 携行品の準備

避難場所への移動を必要とする事態に備え、上記ア～ウのほか次の携行品を常備し、直ぐ持ち出せるようにしてください。なお、退避時の飛行機内への持ち込み制限も考慮し、携行品は20kg程度にまとめておくことをお勧めします（自衛隊機等を含め、機種によっては搭乗前に10kg程度にまとめることを求められる場合もあります）。

(ア) 衣類・着替え（長袖・長ズボンが賢明。行動に便利で、殊更人目を引くような華美でないもの、麻、綿等吸湿性、耐暑性に富む素材が望ましい。また、地域や季節に応じ防寒着または毛布類を持参することが望ましい。）

(イ) 履き物（行動に便利な靴底の厚い頑丈なもの）

(ウ) 洗面用具（タオル、歯磨きセット、石鹸等）

(エ) 非常用食料等

しばらく自宅待機となる場合も想定して、米、調味料、缶詰類、インスタント食品、粉ミルク等の保存食及びミネラルウォーターを、家族全員が10日間程度生活できる量を準備しておいてください。一時避難のため自宅から他の場所へ避難する際には、この中からインスタント食品、缶詰類、粉ミルク、ミネラルウォーターを携行するようになしてください（3日分以上）。

(オ) 医薬品

家庭用常備薬の他、常用薬（必要に応じて医師の薬剤証明書（英文）も用意）、救急キット（外傷薬、消毒薬、衛生綿、包帯、絆創膏など）、マスク、生理用品、紙おむつ等

(カ) その他

懐中電灯、予備のバッテリー、ライター、ローソク、マッチ、ナイフ、缶切り、栓抜き、紙製の食器、ラップ（皿にしくことで繰り返し利用できます）、割り箸、固形燃料、簡単な炊事用具、可能であればヘルメット、防災頭巾（応急的に椅子に敷くクッションでも可）等



## 7 緊急連絡先

官公庁	電 話	F A X	メール	備 考
在ミラノ日本国 総領事館	02-6241-141	02-2900-8899 (領事部)	ryojikan@ml.mofa.go.jp (一般案件) info@ml.mofa.go.jp (領事案件)	緊急電話：閉館 時は緊急連絡オ ペレーターに転送さ れます。
在イタリア 日本国大使館	06-487-991	06-4201-4998 (領事部)	consolare@ro.mofa.go.jp (一般案件)	緊急電話：閉館 時は緊急連絡オ ペレーターに転送さ れます。
在イタリア 邦人団体				
在イタリア 日本商工会議所	02-869-0106	02-8691-0665	webmaster@ccigi.org	
北イタリア 日本人会	02-4830-3500	02-4830-3500	nihonjinkai@tiscali.it	
ミラノ 日本人学校	02-415-0291	02-4830-1078	info@mngitalia.net	
<b>警察関係</b>				
軍警察	112 (全国共通)			
国家警察	113 (全国共通)			
国家警察 ミラノ県本部	02-62261			※24 時間
ミラノ中央駅 鉄道警察署	02-669-4535			※24 時間
ミラノ・マルペンサ 空港警察署	02-5858-4511			※24 時間
ミラノ・リナーテ 空港警察署	02-702-1111			※24 時間
<b>火災及び 救急車</b>				
消防署	115 (全国共通)			
救急車	118 (全国共通)			※救急車ででの搬 送は有料
自動車救助	116 (全国共通)			
<b>主な航空会社</b>				
日本航空 (JAL)	8-488-74777			ロンドン・コールセンター、 日本語可
全日本空輸 (ANA)	①800-877-261 ②+81-3-43326840			①イタリアコールセンター ②日本のカスタマーサ ービス
ITA 航空	①892010 ②+81-3-45894629			①イタリアコールセンター ②日本のカスタマー サービス

《いざという時のための簡単イタリア語》

泥棒！	イタリア語: ラードロ! Al Ladro!
助けて！	イタリア語: アイウト! Aiuto!
すぐに警察を呼んでください！	イタリア語: キアーミ: スービト・ラ・ポリツィーア・ベル・ファヴォーレ! Chiami subito la polizia, per favore!
気分が悪い。	イタリア語: ミ・セント・マーレ Mi sento male.
医者を呼んでください。	イタリア語: キアーミ・ウン・メディコ・ベル・ファヴォーレ Chiami un medico, per favore.
救急車を呼んでください！	イタリア語: キアーミ・ウナン・フランツァ・ベル・ファヴォーレ! Chiami un'ambulanza, per favore!
警察署はどこですか？	イタリア語: ドヴ'・エ・ラ・クエストウーラ? Dov'è la questura?
カードを無効にしてください。	イタリア語: ポトレッベ・ブロッカーレ・ラ・ミア・カルタ・ディ・クレディト Potrebbe bloccare la mia carta di credito?
財布の盗難届を出したいのですが	イタリア語: ヴォレイ: デヌンチャーレ・イル・フルト・デル・ミオ・ポルタフォグリオ Vorrei denunciare il furto del mio portafoglio.
財布／パスポートを盗まれました。	イタリア語: ミ・アンノ・ルバート・イル・ポルタフォグリオ/・イル・パッサポルト Mi hanno rubato il portafoglio/ il passaporto.
交通事故に遭いました。	イタリア語: オ・アヴート・ウニ・インチデンテ Ho avuto un incidente.
誰か英語を話す人はいますか？	イタリア語: チ・エ・クワルクノー・ケ・バルリ・イングラーゼ? C'è qualcuno che parli inglese?
日本語のわかる人を呼んでください。	イタリア語: キアーミ: クワルクノー・ケ・バルリ・イル・ジャッポネーゼ・ベル・ ファヴォーレ! Chiami qualcuno che parli il giapponese, per favore!

※ 詳しくは、当館ホームページ上の「困った時のイタリア語（病気編 | 交通機関のスト編 | 事故編 | 紛失・盗難編 | 単語帳）」を参照ください。  
 ( [http://www.milano.it.emb-japan.go.jp/page8\\_j.htm](http://www.milano.it.emb-japan.go.jp/page8_j.htm) )